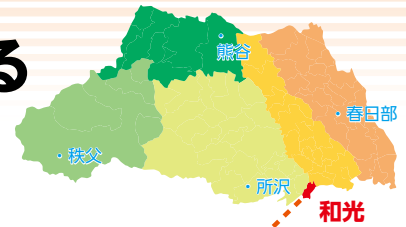


イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー②⑥

和光市 松本 武洋 市長 (45歳)



介護予防事業も経済活性化に寄与すると語る松本 武洋市長

開発効果が期待される2つの区画整理事業

和光市は、経済活性化の起爆剤として土地区画整理事業に期待しています。現在市内5カ所で事業が進み、そのなかでも、とりわけ課題とされてきたのが和光市駅北口の区画整理でした。反対側の南口が商業的に成功しているのに対して、北口は駅のすぐそばでありながら発展に必要な基盤整備ができていない状態が続いていたからです。

▼区画整理後の北口の構想図



▼和光北インター区画整理事業



和光市駅北口と和光北インター地域（薄緑色の部分）で進む区画整理事業。産業振興の起爆剤として期待されている。

和光市駅は通勤・通学に便利な駅として知られ、多くの住民から支持されてきました。少子高齢化の時代にあっても、平成25年に和光市駅から東京都練馬区光が丘に通じるバスの新路線が開通しているほど交通の要衝としての評価は高いのです。

したがって北口でも駅周辺の整備が進めば、南口同様の経済発展の可能性があるとみられ、今後、地下鉄都営三田線方面へバス路線をつなぐ構想もあります。これにより和光市駅の集客力、さらには駅としての魅力も高められればと思います。

さらに当市には、経済活性化のカギを握るもうひとつの区画整理事業があります。それは和光北インター地域の区画整理です。当市の鉄道交通が便利であることは有名ですが、じつは、車による移動にも便利で、駅のすぐそばをかすめるように外環道が走り、和光インターと和光北インターのふたつのインターチェンジが利用可能です。

この利便性を活かして、工業系企業と大型の物流センターの進出が決まっています。首都圏の物流を担う大規模な施設が建ち、千人規模の雇用が生まれる予定です。当市北部の工業、流通業の発展に寄与することと思われます。

都市型農業も熱い！

そのほか、当市は、葉物を中心とした都市型農業も盛んなことで知られていて、市のイメージキャラクター「わこうっち」の名を冠した和光産農産物などのアンテナショップ「わこうっちお野菜村」でPR事業を展開しています。最近では、東武百貨店が開いた東武東上線開業100周年記念「東武

東上線沿線まつり」にて、本市と有名なつけ麺店大勝軒とでコラボし、本市の野菜が入ったスペシャルつけ麺を提供しました。毎日限定100食で6日間、すべて完売です。こうした晴れ舞台での活躍が、本市の野菜の宣伝のみにとどまらず、販路拡大につながることを期待したいところです。

先進的介護事業の「和光モデル」

次は、産業振興から少し離れ、本市の介護予防事業についてお話しします。

いま、本市の介護事業は、着実に成果をあげ、全国からも注目されています。

たとえば、本市の軽度の要介護認定者は、その4割の人が介護予防サービスを受けた後に元の日常生活に戻っています。これはずば抜けた実績といえ、すでに介護事業は本市の先進的な産業のひとつとなっているといっても過言ではありません。

本市の介護事業の特色は、地域ごとにきめ細かい福祉の拠点をづくり、歩いて通えるところにさまざまなサービスステーションを設けていることです。そしてそれを可能にしたのは、本市があらかじめ市内の介護需要をきめ細かく把握し、それを長寿あんしんプランという介護保険の事業計画に落とし込み、広く公表したことにあったと思われます。

これにより参入を検討する事業者は、参入前にマーケットを把握することができました

和光市の概要

人口 (平成22年国勢調査)	80,745人
世帯数 (同上)	37,385世帯
平均年齢 (同上)	39.6歳
生産年齢人口比率 (同上)	71.6%
面積 (同上)	11.04平方キロメートル
名目市内総生産 (平成23年度市町村民経済計算)	1,877億5400万円
事業所数 (平成24年工業統計)	76事業所
製造品出荷額等 (同上)	234億791万円
事業所数 (平成24年経済センサス)	1,861事業所
年間商品販売額 (平成19年商業統計)	984億200万円

●和光市の介護予防プログラム例

▼アミューズメントカジノ



▼介護予防体操



和光市では、高齢者が楽しみながら介護予防にも効くプログラムを用意している。

し、市も事業者と連携し、適正な供給体制を敷くことができました。

参入する事業者に関しても、最先端の介護サービスを行う事業者が包括支援センター運営に参入するようになり、その結果、本市で「和光モデル」を吸収し、それを他の地域で実践する、という図式が成立しました。

こうした取り組みがあって、本市の介護予防事業は、全国の介護事業のモデルと呼ばれるまでになりました。今後は、本市が介護産業全体のレベルを底上げするような先進的な地域になれるよう、頑張っていきたいと思います。年をとっても、いつまでも地域で自立して暮らせるまちを実現する。これが市民の幸せにつながり、まちの活性化につながるものと信じています。

さて今回は、三芳町の林伊佐男町長です。私と同様、駅頭に立ち、政治を身近に感じてもらおうと努力されています。そういう理念を共有する首長として、林町長にバトンを手渡したいと思います。